



いわて医療通信 肝臓の疾患①

# 慢性肝炎とは

今回から、肝臓の病気について数回取り上げていきます。1回目は慢性肝炎についてです。

慢性肝炎(肝機能障害)

とは、6か月以上持続する血清肝酵素上昇を指します。肝酵素とは、健康診断などの採血で検査されるAST(GOT)、ALT(GPT)、γGTPなどのことです。

本来これらは、肝細胞の中で酵素として働いていますが、肝細胞が障害を受けると血液中に漏れ出します。この状態が続いたものを慢性肝炎と呼びます。

肝臓はそもそも旺盛な再

生能力を持っていますので、炎症により壊れた肝細胞を

補うように肝細胞が再生し、肝臓全体の能力を保とうと

します。しかし、長期間にわたってこれが繰り返されると、肝臓内に線維化(線

維成分の増加)がみられるようになり、硬く変化し慢性肝炎から肝硬変へ進展してきます。

慢性肝炎は、多くの場合、初期には症状がありません。そのため、早期発見にはかかりつけ医や人間ドック、健康診断などでの採血検査が重要となります。

国内の慢性肝炎の原因の多くは、肝炎ウイルス(B

型肝炎ウイルス)によるものと、アルコール性肝炎です。また、これらの原因と比べて少数ではありますが、自己免疫性肝炎(自己免疫性胆管炎)など、非アルコール性脂肪性肝疾患、薬物性肝障害なども原因になります。

型・C型)によるものと、アルコール性肝炎です。また、

これら原因と比べて少数ではありますが、自己免疫性肝炎(自己免疫性胆管炎)など、

非アルコール性脂肪性肝疾患、薬物性肝障害なども原因になります。

採血検査や詳しく経過を聞くことで原因が推定できるほか、腹部超音波検査や

腹部コンピュータ断層撮影(CT)などで肝臓の形態や状態を評価することで現状を把握する一助になります。更に治

療方針の決定、原因の特定、肝硬変への進展を診断するために、肝臓の組織を採取し顕微鏡で評価する肝生検が有用です。

慢性肝炎の治療は、大きく分けて症状に対して行うものと原因に対するものに分けられます。肝硬変に進展した状態では、肝臓の働きを補助する目的で、利尿剤・食事療法などにより症状改善を目指します。原因に対しての治療は、原因毎に大きく異なりますので、担当医の指示に従って対処していきましょう。

慢性肝炎の治療は、大きく分けて症状に対して行うものと原因に対するものに分けられます。肝硬変に進展した状態では、肝臓の働きを補助する目的で、利尿剤・食事療法などにより症状改善を目指します。原因に対しての治療は、原因毎に大きく異なりますので、担当医の指示に従って対処していきましょう。

岩手医科大学は2017年創立120周年を迎えます



誠のあゆみ、未来へつなぐ

Iwate Medical University 岩手医科大学